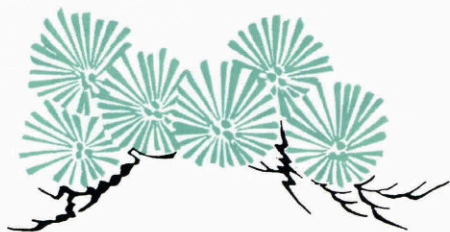


みんなの 広場



シリーズ 79
生涯学習

2000人が
集まった

「子ども会の日」開催

「ほくらも何年か前、ああたつたろうと思うと懐かしいけどすごいなあ小学生って、ついでいけんわ。」

と、お手伝いにかけてくれたジュニアリーダーたち。大人たちは、いささかいらだちぎみなのに、高校生たちは、にこにこ見守っている。12月17日、第一回三隅子ども会育成連絡協



▲「輪になって、みんなで折紙」

議会主催の「子ども会の日」が開催されました。集まった子どもたちは二百名。子どもたちの企画による〇×クイズ、紙飛行機とぼし大会、新聞紙折って折ってジャンケン等で、わいわいガヤガヤ。初企画・運営で、戸惑うことも多くありましたが、一つの行事を終えて、もたもた準備していた子どもたちが、かたづけに一生懸命な姿を見て、体験が自信につながるように感じました。

学校だより

25

『幼稚園が大きくふくらんだよ!』

～ 宗頭幼稚園 ～

「達ちゃんとおばちゃん、はよう来んかねー」と二人の来園を待っているM君。
「この前、小麦粉粘土でいっぱい遊んだから、また、作っちゃおうや……」と粘土作りに一生懸命の五歳児。
幼稚園では、園児と未就園の子供さん、お母さん方とのふれあいの機会をと、毎月一回「遊びの広場」として園を開放しています。



▲小麦粉粘土のごちそうづくり

その日は、いつもの人数の倍に膨らみ、園舎は活気に満ち、はち切れそうです。
よちよち歩きのT君は、ニコニコ顔でボールを追いかけて、追いついてボールを手にすると、必ずお母さんを見るのです。目が会うと、笑顔は一段と輝きを増します。幾度となく繰り返される、この遊びを見て、五歳児のM君は、「お母さんが大好きなんじゃね」とつぶやきながら、遠くに転がったボールを、やさしく返していました。
四歳のU君は、小麦粉粘土を両手でもんだり、粘土ペラで切ったり、自分がやって見せながら、楽しさを伝えていました。



たいと考えています。

一人ひとりの園児が、さまざまなかかり方をしています。K君のお母さんは、自分の子供を目で追いつながり、園児とな引きやなわとびで遊んで下さいます。折り紙あそび、レストランごっこ、仲間に加わって下さるお母さんもいます。保健婦さんも毎回参加、育児相談に答えています。
幼稚園の大きな役割として、人とかかりの経験を十分に体験する場を提供すること、また、幼稚園での経験をもとに、地域での仲間関係が広がるように援助することがあります。
これからも、遊びの広場が、園児たちの育ちにとって、良い刺激材となり、よい環境となるよう、取り組んで行きたいと考えています。

▼中庭でかわいい声が飛びかいます

